



TITLE:

精巣類表皮嚢胞：精巣を保存した 1例

AUTHOR(S):

伊藤, 哲也; 加藤, 禎一; 山本, 啓介; 熊田, 憲彦; 岸本,
武利

CITATION:

伊藤, 哲也 ...[et al]. 精巣類表皮嚢胞：精巣を保存した1例. 泌尿器科紀要
1992, 38(10): 1187-1190

ISSUE DATE:

1992-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/117666>

RIGHT:

精巢類表皮嚢胞

—精巢を保存した1例—

市立伊丹病院泌尿器科 (部長 : 山本啓介)

伊藤 哲也, 加藤 禎一, 山本 啓介

大阪市立大学医学部泌尿器科学教室 (主任 : 岸本武利教授)

熊田 憲彦, 岸本 武利

EPIDERMOID CYST OF THE TESTIS: A CASE FOR TESTIS PRESERVATION

Tetsuya Ito, Yoshikazu Kato and Keisuke Yamamoto

From the Department of Urology, Itami City Hospital

Norihiko Kumata and Taketschi Kishimoto

From the Department of Urology, Osaka City University School of Medicine

A 19-year-old man complained of an asymptomatic right testicular mass. Physical examination revealed a firm, small-finger sized, mass lesion with a smooth surface in the right testis. The ultrasonographic appearance was hypoechoic and well-demarcated intratesticular lesion. All laboratory investigations, including tumor markers, were normal. The testis was explored through an inguinal incision. The mass was excised locally and the biopsy of the adjacent testicular tissue was done with gentle code clamping. The histological diagnosis was epidermoid cyst of the testis and the testicular tissue obtained was normal. About 90 cases of testicular epidermoid cyst have been reported in the Japanese literature, and are reviewed briefly here.

(Acta Urol. Jpn. 38: 1187-1190, 1992)

Key words: Benign testicular tumor, Epidermoid cyst

緒 言

精巣腫瘍はそのほとんどが悪性であり, 良性腫瘍は2~4%を占めるに過ぎない¹⁾. 類表皮嚢胞 (epidermoid cyst) は全精巣腫瘍の約1%を占めるといわれている²⁾. 現在までわれわれが調べたかぎりでは自験例を含めて本邦で90例報告されており若干の文献的考察を加えて報告する.

症 例

患者: 19歳, 男子, 学生

主訴: 右陰嚢内腫瘍

既往歴・家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 数日前より右陰嚢内の無痛性腫瘍に気がつき, 1990年9月8日, 当科を受診した.

現症: 栄養, 体格とも良好. 胸部, 腹部理学的所見に異常を認めない. 右陰嚢内容は, 精巣上体および精

索には異常を認めなかった. 精巣もその大きさには異常を認めなかったが, 精巣内に周りととはあきらかに区別される小指頭大の腫瘍を触知し, 圧痛はなく, 表面平滑, 弾性硬であった. 左陰嚢内容は正常であった.

検査所見・尿, 血液一般, 血液生化学に異常を認めず, LDH, β -HCG, AFP, CEA も正常であった. 胸腹部X線, 排泄性尿路造影, 心電図も正常であった. 超音波検査では, 右精巣実質内に1.5 cm×1.3 cm大の hypoechoic lesion を認め, 境界は明瞭であった (Fig. 1).

外来にて経過観察してきたが, 腫瘍の大きさは縮小傾向を認めず, 超音波検査所見および血液検査所見より, 精巣の嚢胞性疾患として腫瘍の摘出を目的に, 1991年8月19日手術を施行した.

手術所見: 高位精巣摘除術の手順に従い, 阻血状態のもと精巣, 精巣上体を露出させたが, 肉眼的にはともに異常なかった. 触診では弾性硬の精巣実質内中央

に、腫瘍は存在したため、白膜を切開し腫瘍摘出術を施行した。精巣実質との剝離は容易だった。摘出標本の断面の肉眼的所見より、malignancy はほぼ否定できると考え、腫瘍に接した精巣組織を生検し、手術を終えた。

摘出標本：腫瘍は直径 1.5 cm、被膜に被われ、精巣実質とは明瞭に境されていた。内容物は黄白色チーズ

状であった (Fig. 2)。

病理組織学的所見：病理診断は epidermoid cyst of the testis と考えられた。嚢胞壁は線維性結合組織より成り、macrophage、異物巨細胞が見られ、内面の上皮は剝脱していた。内腔にはケラチン様物質が認められた (Fig. 3)。生検した精巣実質には異常を認めなかった。

考 察

精巣の類表皮嚢胞 (epidermoid cyst) は全精巣腫瘍の約 1% を占めるといわれ²⁾。比較的稀な疾患に属する。1986年、関井ら³⁾は本邦の 65 例を集計し発表している。しかし、これ以降、自験例を含め本邦で 25 例の報告例がみられ、報告数は増加する傾向にある。Kressel ら⁴⁾は腫瘍マーカー等の術前検査で異常のない直径 2 cm 以下の陰嚢内腫瘍 345 例のうち 22 例が epidermoid cyst であったと報告している。Prince⁵⁾は 5,845 例の精巣腫瘍のうち epidermal cyst, epidermoid cyst, squamous cyst, dermoid cyst, benign teratoma, differentiated teratoma として登録された症例を retrospective に検索し、以下の 4 条件を満たすものを epidermoid cyst として 69 例を集計している。全例、HE 染色のスライドは存在し、組織の残っているものについては、特殊染色も実施したと述べている。

- (1) 精巣実質内にある cyst
- (2) cyst 内腔にはケラチン様物質または無構造の物質が層をなしている。
- (3) cyst 壁は線維性組織で、内面には扁平上皮が存在するが、不完全なこともある。
- (4) 他の teratoma 様組織や、皮膚付属器官は cyst の内にも外にも存在しない。

本邦報告例 90 例について検討を加えてみると、年齢は 10~19 歳にピークがあり、10~29 歳で全体の 62.2% を占めていた。臨床症状としては、無痛性の腫瘍あるいは腫脹を主訴とするものが 63.3% を占め、その大きさは 1~3 cm のものが、56.7% を占めている。術前診断としては、60% 以上が精巣悪性腫瘍を疑っており、治療法は 77.8% が精巣摘除術を施行している。

epidermoid cyst の特徴としては、触診上、明確な限局性、平滑性、被包性、精巣実質との非癒着性、などがあげられており^{6,7)}、超音波検査では、周囲と明瞭に区別できる腫瘍である、腫瘍壁が強いエコーパターンを示す、内部エコーは総じて低レベルである、などの特徴があげられている⁸⁾。しかし、触診や超音波検査上、特徴的でない症例もあり、悪性腫瘍との鑑別は

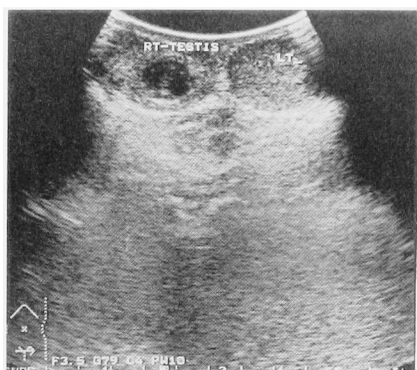


Fig. 1. Ultrasonogram of scrotum. The hypoechoic lesion was observed in the right testis.



Fig. 2. Gross appearance of the excised cyst.

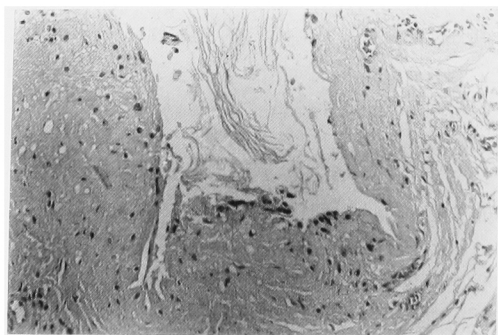


Fig. 3. Microscopic appearance of the excised cyst.

難しい場合もある。

精巣の epidermoid cyst の治療法には2つの考え方があつた。1つは良性だから精巣を保存する, もう1つは悪性が否定できないから精巣摘除術を施行するというものである。精巣腫瘍は圧倒的に悪性腫瘍が多いため精巣摘除術は精巣内腫瘍の正確な診断をつけるための生検であると一般に考えられてきた。その理由としては, 精巣に手を加えることは腫瘍の播種につながる, 精巣内をくまなく検索するには精巣摘除術が必要である, などである。また術中凍結切片のみでは上皮内癌を見落とす可能性があり, 永久切片にて検索する必要があるという報告もある^{9,10)}。これらの理由で大部分の症例に対し, 精巣摘除術が実施されてきた。

しかし, Boileau ら¹¹⁾の報告によれば, 当初, 陰嚢部切開による精巣摘除術や, 精巣生検が実施された精巣悪性腫瘍の症例に対して術後14日から3ヵ月後に実施された再手術が, 予後を悪化させることはないことを報告している。

また Prince⁵⁾の報告では follow up 可能だった精巣摘除例43例, 嚢胞摘除例10例の53例の epidermoid cyst に再発, 転移は認めていないと述べている。Prince は epidermoid cyst の診断には, cyst wall を複数の切片にて検索することが重要で, これにより他疾患との鑑別は可能と述べている。Kressel ら⁴⁾も, 1980年から1986年までに345例の陰嚢内腫瘍に対し手術を行い, 22例の epidermoid cyst のうち19例に対し, 精巣を保存し再発は認めていないと報告している。彼らは術前検査で異常のない直径2cm以下の陰嚢内腫瘍に対しては, 阻血下で白膜を開き肉眼的に良性と考えられる場合は, 術中凍結切片にて検索し, 良性と診断されれば嚢胞摘除術を実施している。また Reinberg ら¹²⁾も, 同じく7症例に対し嚢胞摘除術を施行し再発は認めていないと報告している。Johnson ら¹³⁾は epidermoid cyst と離れた精巣実質内に mature teratoma の小病巣を認めたという1例報告を行っているが, このような症例はむしろ非常に稀であり, 大多数の症例に精巣摘除術が実施されているにもかかわらず, 他にこのような報告はない。

本症例の場合は, 臨床経過, 超音波検査の所見, 術中所見より, 悪性腫瘍は考えにくく, 嚢胞摘除術施行後, 精巣生検をして手術を終えたが, これは必ずしも完全な処置ではなかったと考えている。しかし近年, 超音波検査などの診断法の進歩により, 本疾患の報告例は増加しつつあり, また, 本邦報告例では, 本疾患のピークが10~19歳にあることを考えると精巣摘除術が与える心理的悪影響は多大と考えられる。以上の

ことより, 術前検査, 術中所見で良性腫瘍が考えられる場合には, 嚢胞摘除術を実施し, 精巣生検を加え, 術中凍結切片にて検索し良性と診断されれば, 精巣を保存し, 可及的早期に摘出標本を詳しく調べ, もし必要なら再手術を施行するというようなプロトコルのもとで, 精巣を温存する治療法が第一選択になるべきであると考ええる。

結 語

精巣類表皮嚢胞の1例を報告するとともに, 若干の文献的考察を加えた。

本論文の要旨は第138回日本泌尿器科学会関西地方会において発表した。

文 献

- 1) Nagal LR and Polley VB: Epidermoid cysts of testis. *J Urol* 73: 124-127, 1955
- 2) Shah KH, Maxted WG and Chun B: Epidermoid cysts of the testis: a report of three cases and analysis of 141 cases from the world literature. *Cancer* 47: 577-582, 1981
- 3) 関井謙一郎, 高 栄哲, 並木幹夫, ほか: 睾丸類表皮嚢胞の1例. *泌尿紀要* 32: 1533-1538, 1986
- 4) Kressel K, Schnell D, Heymer B, et al.: Benign testicular tumors: a case for testis preservation? *Eur Urol* 15: 200-204, 1988
- 5) Prince EB: Epidermoid cysts of the testis: a clinical and pathological analysis of 69 cases from the testicular tumor registry. *J Urol* 102: 708-713, 1969
- 6) 小川秋実, 横山政夫, 仁藤 博: 睾丸類表皮嚢腫の2例. *臨泌* 23: 845-846, 1967
- 7) 中村昌平, 横山正夫, 阿曾佳郎: 睾丸類表皮嚢腫の1例と本邦症例の文献的考察. *臨泌* 30: 443-445, 1976
- 8) Cohen EL: Epidermoid cyst of testicle: ultrasonographic characteristics. *Urology* 24: 79-81, 1984
- 9) Manivel JC, Reinberg Y, Niehans GA, et al.: Intratubular germ cell neoplasia in testicular teratoma and epidermoid cysts: correlation with prognosis and possible biologic significance. *Cancer* 64: 715-720, 1989
- 10) Reinberg Y, Manivel JC and Fraley EE: Carcinoma in situ of the testis. *J Urol* 142: 243-247, 1989
- 11) Boileau MA and Steers WD: Testis tumors: the clinical significance of the tumor-contaminated scrotum. *J Urol* 132: 51-54, 1984
- 12) Reinberg Y, Manivel JC, Llerena J, et al.: Epidermoid cyst (monodermal teratoma) of

- the testis. Br J Urol **66**: 648-651, 1990
- 13) Johnson JW, Hodge EE and Radwin HM:
Epidermoid cyst of testis; a case for orchiec-

tomy. Urology **29**: 23-25, 1987

(Received on February 12, 1992)
(Accepted on April 25, 1992)